

「福音を伝える」ヒント集 カトリック 徳山教会

2020年9月 アンネの日記

先月は黙想会での体験をご紹介します。日常の生活から離れて御言葉を味わう時間が取れる事はとても恵まれていると思います。今回は、福島ボランティアに出かけられなかった8月に「平和」について考えた内容から「アンネの日記」を取り上げます。1959年製作の映画から印象に残った2箇所をご紹介します。まず「アンネの日記」の背景をご紹介します。フランクフルトで生まれたアンネ・フランクは、ドイツでのユダヤ人への迫害が激しくなるとオランダのアムステルダムに家族と移住します。しかし、ここもドイツに占領され、身の危険を感じ、父が経営する事務所に用意した隠れ家に移ります。そこで2年1ヶ月、家族4人と父の同僚の家族、後から身を寄せた歯医者と8人で息を潜めて生活します。しかし、侵入した泥棒の密告によりゲシュタポに連行され、15歳でベルゲン・ベルゼンの収容所でチフスで亡くなります。アウシュビッツに移送された父だけが生き残り「アンネの日記」を世界に広めました。また、アンネは好きなこと（作家志望だった）を思い存分させてくれるモンテッソーリ教育の幼稚園と小学校を卒業しています。優等生の姉とは違う教育、彼女の創造性を生かす教育を受けられたことが「アンネの日記」にも反映されているのでしょうか。映画から2つの場面で考えます。

1. どんなにひどい世の中でも少しは希望を持ちたい

姉のマルゴー：どんな終わりでも、いっそ早く終わりが来ればい

い。とにかくすっきりする。(絶望の力が働いている)

母のエディス：マルゴー！ 何てこと言うの！ 私たちがどれだけ幸運な方か考えないで。毎日、戦争でどれだけ死んでいるか。収容所の人のことを考えなさい。(真っ当な考え)

アンネ：なぜ？ こんなみじめなのに、またみじめなことを考えろと言うの？ 私たちは若いよ。大人と違って これからの。恐ろしいことばかり考えてたら気が変になる。どんなにひどい世の中でも少しは希望を持ちたいの。世の中がこうなったのは、私たちのせいじゃない。(希望を探す創造性と強さ)

母のエディス：おだまり。

途中省略

アンネ：つい、カッとして。大人は考えが出来上がってるけど、私達はまだ手探りだわ。過去の子供が全く経験してない問題だし。

振り返りの質問

Q. 隠れ家での不安な日々に大人は八方塞がりを感じ、絶望感も抱いたでしょう。それでも希望を見出そうとしたアンネ。私とはどこが違うのでしょうか？

2. 「こんな世の中でも私は信じている。人間は本来は善よ」

1944年7月2日(8月4日にアンネはゲシュタポに連行されます)

向かいのビルの八百屋さんがユダヤ人をかくまっていたことが見つかかり収容所に送られました。

日記：皆、ふさぎ込み、さすがの父も沈んでいます。私も気が滅入るけど、絶望はしません。日記を書けば心が軽くなります。ただ、問題は、うまい書き手になれるかどうか？ 書いて残したいのです。死んだ後も何かを。(私は何を残すのでしょうか?)

アンネ：ペーター！(父の同僚の家族で恋人)空を見て。きれいな雲ね。何て いい日でしょう。ここで耐えきれない時、私がどうするか知ってる？ 外にいると思うの。父とよく行った公園にいて、クロッカスや水仙が一面に咲いている。ねっ？ 何でも自分の思うまま。空想の世界ってそれは美しいの。素敵でしょう？

ペーター：どうかなりそうだ。何か起きないと、今すぐここを出ないと。もう耐えられない。

アンネ：信仰があればいいのに。

ペーター：そんなものごめんだ。

アンネ：天国や地獄を信じるとか普通の宗教じゃないの。ただの信仰。何でもいい。ただ何かを信じるの。私は外のこと、木や花やカモメのことを考える。大切なあなたのこと。それから私たちをかくまってくれてるクラレさんやミーブさん、八百屋さん(ゲシュタポに見つかって連行された家族)。私たちのために命を懸けてる人、そんなことを考えると怖くなくなる。自分を取り戻せるの。神様も。

ペーター：素晴らしいよ。でも・・・僕は考え出すと腹が立ってくる。こうやって2年も隠れたまま。動くこともできず、捕まるのを待ってる。

アンネ：私たちだけじゃないわ。昔からいろんな民族が苦しい目

に遭ってきたわ。

ペーター：慰めにならない。

アンネ：こんな恐ろしい世の中で、何かを信じるのは難しいわ。
でも、私は思うの。私と母みたいに今に世界も変わるわ。何百年と待たなくても、いつかこんな時代は終わる。こんな世の中でも私は信じてるわ。人間は本来は善よ。（永遠の世界を垣間見る）

ペーター：そんなに遠い先じゃなくて今すぐ見たい。

アンネ：でもペーター。広大な宇宙から見たら、私たちの命なんて一瞬よ。いやだ、大人たちみたいに議論してる。空を見て、きれいでしょ。いつかまた外に出られる日が来たら・・・（希望を口にしてペーターは抱き合う）

それから1ヶ月後、外には8人を連行しにゲシュタポの車が・・・
ゲシュタポが玄関を叩く音

父のフランク：2年、おびえて暮らした。今からは希望に生きよう。（**隠れ家のドアがゲシュタポに壊される**）

日記：隠れ家の暮らしも終わりのようです。（収容所に連れて行かれるまでの）荷造りの時間はわずか。許された荷物はカバン1つとそれに入る衣類だけです。だから日記さん、あなたを連れていきません。しばし、お別れね。

追伸、どなたか存じませんが、この日記を見つけたら、どうか大切に保管してください。もしかしたら・・・（日記はここまで）

振り返りの質問

Q. 「こんな世の中でも私は信じている。人間は本来は善よ」と言ったアンネ。私は、「人間は本来は善よ」と言えるでしょうか？

Q. 「いつかまた外に出られる日（自由に暮らせる日）が来たら」とアンネは願いましたが叶いませんでした。私たちは、「外に出られる日」を生きています。そのことをどう受け止めているのでしょうか？